



私と京都

～「景観力」のトップランナーとして～



京都市立芸術大学 名誉教授 藤本 英子 氏
一般社団法人 日本景観文化研究機構 代表理事

京都生まれの母に大阪で育った私は、出身を聞かれるといつも「ハーフ京都です」と答えている。京都市立芸術大学を卒業して東京に就職した時に、大阪出身という時の反応と、京都の大学出身という時の反応があまりにも異なったためである。京都は揺るぎないブランド力を持ち合わせている。今「景観力」という言葉を提唱しているが、これはハード面の見える現実と、ソフト面の地域の活動やイメージ、その両方を捉えた言い方である。この視点からもブランド力のある京都は「景観力」が高いと言える。

就職した会社を退職して36年前に独立してから景観分野を専門としているが、今年まちセンの評議員に迎えていただき、感無量である。1990年に関西に戻ってからは、「街の色研究会・京都」の活動で、京都の色彩の調査や、今広がっているライトアップのスタートに携わってきた。景観法設立時には、都市環境デザイン会議(JUDI)で、京都の景観について考える大きなシンポジウムの運営委員長を

務めさせていただいたことも、ついこの間のように思い出される。京都市側で携わっていたわけではないが、専門の屋外広告物行政を国内トップで進められた時には、「広告がなくなってまちが寂しくなる」と言われる方に「これは過渡期で、これから本来の建築外壁デザインの質が高まって屋外広告物の役割も向上する」と言い続けてきた。国内トップで進められている自転車政策では、道路のガイドライン(京の道ガイドライン)の作成時から関わらせていただき、今みなさんが目にされている道路上の自転車ピクトを、国のガイドラインより質高くデザインさせていただいた。全国に広がる「青」ではなく「ベンガラ色」で景観に配慮された色彩となっている。京都市はこのブランド力を持って、日本の最先端を見せていく役割を景観でも持っている。駅前に移転した母校の活躍にも期待しながら、景観トップランナーの体力をつけて、市民の皆さんや関係市民の皆さんとともに走り続けたいと思う。

表紙イラスト作者
山口 珠瑛 (やまぐち たまえ)
アトリエ TAM 主催 URL <http://tam-y.com>

絵本作家、イラストレーター。京都生まれ。京都育ち。
京都教育大学 特修美術科西洋画卒業。「町家えほん」「福ねお豆のなるほど京暮らし」発売中。
京の暮らしがわかるYouTube動画をつくりました。「ふくまめ京暮らし」で検索してくださいね。

ニュースレター 京まち工房 109

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上
梅津町83番地の1(河原町五条下る東側)ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp HP: <https://kyoto-machisen.jp>



令和6年度賛助会員募集中!

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |



※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター 京まち工房

防災まちづくりと京町家の未来

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター



乾隆学区の防災まちづくり(活動団体、計画)が認定されました —世代を超えて地域がつながり 安心・安全にずっと暮らせる 乾隆のまち—

上京区乾隆学区は、西陣地区の一角であり、今宮神社の鉾町や千本糸んま堂など歴史と文化に彩られた地域です。「だいすき乾隆」を合言葉に、乾隆まつりなど地域行事も活発で、令和3年から乾隆学区自主防災会において防災まちづくりに取り組んでこられました。

令和6年8月、その成果として作成された「路地・まち防災まちづくり計画」が、「防災まちづくり活動団体」と併せて京都市から認定されました。

また、長年にわたり地域が主体となって災害に強いまちづくりに取り組んでいることが評価され、令和6年防災功労者防災担当大臣表彰を受賞されました。この度はおめでとうございます。



認定証授与式(9月4日 京都市役所正庁の間にて)



乾隆まつり



防災まちづくり計画

京のまちづくり史連続講座<秋季>開催報告

「京都というまちの色
—景観デザインから見た公共空間の色彩—」

講師：藤本英子氏
(京都市立芸術大学 名誉教授) **10/18 開催**

京都の公共空間の景観色彩について、京都市の基準と現在の状況から、未来に向けた、更に京都らしいまちの色に向けての提言まで、長年、全国各地で景観行政に関わってこられた、色彩の専門家である藤本先生に講義していただきました。



「京都の祭礼における御旅所の歴史と役割
—大阪との比較もあわせて—」

講師：本多健一氏
(立命館大学 研究員) **11/13 開催**

長い歴史の中で、祇園祭をはじめ、京都の主要な神社の多くの祭りの中心となってきた御旅所について、神社主導ではなく、氏子である都市民衆によって設置されたこと、また大阪との比較も交えながら解説していただきました。



京のまちづくり史連続講座<冬季>予告!

「京都の産業—職住一体の暮らしと生業—」

講師：滋野浩毅氏
(京都産業大学 現代社会学部 教授) **令和7年 1月31日(金)**

職住一体の生活が深く根付く、「ものづくりのまち」京都の戦後の変遷を、西陣織などの伝統産業と、その品を取り扱う商業、また職人たちの日常生活を支える商店街を中心に探求します。

「京のまちなみと町式目—町家と消防とまちづくり—」

講師：丸山俊明氏
(住環境文化研究所 主宰) **令和7年 2月28日(金)**

京都のまちなみの変化と、豊臣、徳川両政権の政策の関係を、町人が大切にきた町式目等から読み解き、その中で、当時の消火の方法や、大火を機に生まれた京都らしい都市景観などを掘り下げます。

京町家を未来につなぐ

「京町家等継承ネット10周年記念特別講演会」を開催しました。

京町家等継承ネットは、2014年の設立以降、今年で10周年を迎えることを記念し、特別講演会を企画・開催いたしました。

講演会では、お二人の講師から、建築文化の振興の観点からの国レベルでの新しい動き、国際的な視野からの町家の魅力と保全の必要性などについてご紹介いただきました。また、その後のトークセッションでは、伝統的建造物の保全に向けて関係者のネットワークが重要であること、継承ネットが「京町家を守るとりで」となることへの期待など、継承ネットへのエールの言葉をいただきました。会場には、これまで継承ネットで一緒に活動してきた会員をはじめ約100名の方々が参加され、熱心に聴講されていました。



トークセッションの様子

【特別講演会】

- 開催日時 11月20日(水) ● 会場 ヒューリックホール京都(立誠ガーデンヒューリック京都1階内)
- プログラム 話題提供 「建築文化の振興について」 清永 洋平氏 (文化庁文化財調査官(建造物担当))
講演 「ニューヨークから町家の未来を守る」 稲垣 光彦氏 (ワールド・モニュメント財団 日本代表)
トークセッション 清永 洋平氏、稲垣 光彦氏
高田 光雄氏(司会:京町家等継承ネット 代表)

京町家の授業を支援しました『京町家について知ろう』

この度、家庭科での「住」教育の一環として日本の伝統的な住まい方を学習している、京都市立西京高等学校附属中学校3年生の京町家についての授業を支援しました。

「京町家について知ろう」と題し、まずは京町家の概要(起源や特徴、構造、空間構成)を説明し、季節に応じた住まい方の工夫や、京町家を取り巻く現状、再生・活用事例をお話ししました。

京町家が減少している中、京町家とその文化を未来に継承するためのアイデアについてグループで話し合い、発表してもらいました。店舗や旅館にする、漫画やアニメの舞台にして京町家を広めるというアイデアや、京都市の条例での補助をより手厚くするという意見などがありました。

また外国人に知ってもらうために、日本文化を体験できる施設として利用するというアイデアや、京都では小学生のうちから京町家に触れる機会が必要など、多岐にわたる案が出されました。

京都の景観や生活文化が形として表れている京町家。京町家の未来を中学生とともに考える機会となりました。



授業の様子(9月実施)



京町家まちづくりファンド改修助成事業が選定されました!

京町家まちづくりファンドでは、京町家への改修費用の外観の助成事業を通じて、所有者・居住者とともに、京町家をまちづくりの拠点として再生し、次の時代につないでいく取組を行っています。今年度は2件が選定となりました。

昭和小路 ココナガヤ(東山区)

昭和小路の路地奥にある長屋を再生する地域に開く職住一体の京町家改修プロジェクト



竹中庵の京町家3軒(左京区)

白川に面した元精麦所の借家3軒を改修する通り景観修景プロジェクト



京町家まちづくりファンドホームページ

各プロジェクトの詳細や事業の進捗状況、過去の助成事例、ご寄附の案内については、こちらをご覧ください。

